武蔵野日曜聖書講筵

ヨセフ

――創世記第37～45章――

１９７７年5月22日
小池辰雄

イスラエルの十二支派　兄弟かれを嫉めり　ヨセフ奴隷としてエジプトへ　ヨセフ獄に繋がれる　二人の臣の夢の解明　パロの夢明かし　神の僕　兄弟たち穀物を買いにエジプトへ　シメオン人質になる　ユダ捨身の約束　遣わしたるは神なり　真理はドラマティック

【創世記35】

16 かくてヤコブ等ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでは尚路の隔(へだたり)ある処にてラケル産(さん)にのぞみその産おもかりき 17 彼難産にのぞめる時産婆(とりあげおんな)之にいいけるは 懼るなかれ汝また此男の子を得たり 18 彼死にのぞみてその魂さらんとする時その子の名をベノニ（吾苦痛(わがくるしみ)の子）と呼びたり 然(され)ど其父これをベニヤミン（右手の子）となづけたり」（創世記35・16～18）

【創世記37】

1 ヤコブはカナンの地に住めり 即ちその父が寄寓(やどり)し地なり 2 ヤコブの伝は左のごとし ヨセフ十七歳にしてその兄弟と偕に羊を牧(か)う ヨセフは童子(わらべ)にしてその父の妻ビルハの子およびジルパの子と侶(とも)たりしが彼等の悪(あし)き事を父につぐ 3 ヨセフは老年子(としよりご)なるが故にイスラエルその諸(すべて)の兄弟よりも深くこれを愛しこれがために綵(いろどれ)る衣を製(つく)れり 4 その兄弟等父がその諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を悪(にく)み穏和(やわらか)に彼にものいうことを得せざりき

5 茲にヨセフ夢をみてその兄弟に告げければ彼等 愈(いよいよ) これを悪(にく)めり 6 ヨセフ彼等にいいけるは 請うわが夢(み)たる此夢を聴け 7 我等田の中に禾束(たば)をむすび居たるにわが禾束おき且立てり 而して汝等の禾束環(めぐ)りたちてわが禾束を拝せり 8 その兄弟等之にいいけるは 汝真(まこと)にわれらの君(きみ)となるや真に我等をおさむるにいたるやと その夢とその言のために益(ますます) これを悪(にく)めり 9 ヨセフ又一つの夢をみて之をその兄弟に述べていいけるは 我また夢をみたるに日と月と十一の星われを拝せりと 10 則ちこれをその父と兄弟に述べければ父かれを戒めて彼にいう 汝が夢(み)しこの夢は何ぞや我と汝の母となんじの兄弟と実(まこと)にゆきて地に鞠(かがみ)て汝を拝するにいたらんやと 11 斯(かかり)しかばその兄弟かれを嫉(ねた)めり 然(され)どその父はこの言をおぼえたり

12茲にその兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧いいたりしかば 13イスラエル、ヨセフにいいけるは汝の兄弟はシケムにて羊を牧いおるにあらずや来れ汝を彼等につかわさん ヨセフ父にいう 我ここにあり 14父かれにいいけるは 請う往きて汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかえりて我につげよと 彼をヘブロンの谷より遣わしければ遂にシケムに至る。……

18ヨセフの彼等に近かざる前に彼ら之を遙かに見てこれを殺さんと謀り 19互にいいけるは視よ作夢者きたる 20去来彼をころして阱に投げいれ或悪き獣これを食いたりと言わん而して彼の夢の如何になるかを観るべし 21ルベン聞きてヨセフを彼等の手より拯いださんとして言いけるは 我等これを殺すべからず 22ルベンまた彼らにいいけるは 血をながすなかれ 之を曠野の此阱に投げいれて手をこれにつくるなかれと 是は之を彼等の手よりすくいだして父に帰さんとてなりき 23茲にヨセフ兄弟の許に到りければ彼等ヨセフの衣即ちその着たる綵る衣を褫ぎ 24彼を執えて阱に投げいれたり 阱は空にしてその中に水あらざりき

25斯して彼等坐りてパンを食い目をあげて見しに一群のイシマエル人駱駝に香物と乳香と没薬をおわせてエジプトにくだりゆかんとてギレアデより来る 26ユダその兄弟にいいけるは我儕弟をころしてその血を匿すも何の益かあらん 27去来彼をイシマエル人に売らん 彼は我等の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれにつくべからずと 兄弟等これを善とす 28時にミデアンの商旅経過ければヨセフを阱よりひきあげ 銀二十枚にてヨセフをイシマエル人に売り 彼等すなわちヨセフをエジプトにたずさえゆきぬ

29茲にルベンかえりて阱にいたり見しにヨセフ阱におらざりしかばその衣を裂き 30兄弟の許にかえりて言う童子はおらず嗚呼我何処にゆくべきや 31斯て彼等ヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてその衣を血に濡し 32その綵る衣を父におくり遣していいけるは 我等これを得たりなんじの子の衣なるや否やを知れと 33父これを知りていう わが子の衣なり悪き獣彼をくらえりヨセフはかならずさかれしならんと 34ヤコブその衣を裂き麻布を腰にまとい久しくその子のためになげけり 35その子 女みな起てかれを慰むれどもその慰謝をうけずして 我は哀きつつ陰府にくだりて我子のもとにゆかんという 斯その父かれのために哭ぬ 36偕ミデアン人はエジプトにてパロの侍衛の長ポテパルにヨセフを売れり

【創世記39】

1ヨセフ挈えられてエジプトにくだりしがエジプト人ポテパル、パロの臣侍衛の長なる者彼を其処にたずさえくだれるイシマエル人の手よりこれを買

う 2エホバ、ヨセフとともに在す 彼享通者となりてその主人なるエジプト人の家におる 3その主人エホバの彼とともにいますを見 またエホバがかれの手の凡てなすところを享通しめたもうを見たり 4是によりてヨセフ彼の心にかなひて其近侍となる 彼ヨセフにその家を宰どらしめその所有を尽くその手に委ねたり 5彼ヨセフにその家とその有てる凡の物をつかさどらせし時よりしてエホバ、ヨセフのために其エジプト人の家を祝みたもう 即ちエホバの祝福かれが家と田に有る凡の物におよぶ 6彼その有る物をことごとくヨセフの手にゆだねその食うパンの外は何もかえりみざりき 夫ヨセフは容貌麗しくして顔美しかりき

7これらの事の後その主人の妻ヨセフに目をつけて我と寝よという 8ヨセフ拒みて主人の妻にいいけるは 視よわが主人の家の中の物をかえりみずその有るものことごとくわが手に委ぬ 9この家には我より大なるものなし又主人何をも我に禁ぜず只汝を除くのみ 汝はその妻なればなり 然ば我いかで此おおいなる悪をなして神に罪をおかすをえんや 10彼日々にヨセフに言いよりたれどもヨセフきかずして之といねず 亦与におらざりき 11当時ヨセフその職をなさんとて家にいりしが家の人一箇もその内におらざりき 12時に彼婦その衣を執えて我といねよといいければヨセフ衣を彼の手に棄ておきて外に遁げいでたり 13彼ヨセフがその衣を己の手に棄ておきて遁げいでしを見て 14その家の人々を呼びてこれにいう 視よヘブル人を我等の所につれ来て我等にたわむれしむ 彼我といねんとて我の所にいり来しかば我大声によばわれり 15彼わが声をあげて呼ばわるを聞しかばその衣をわが許にすておきて外に遁げいでたりと……

19主人その妻が己につげて汝の僕斯のごとく我になせりという言を聞きて怒を発せり 20是に於てヨセフの主人彼を執えて獄にいる 其獄は王の囚徒を繋ぐ所なり ヨセフ彼処にて獄におりしが 21エホバ、ヨセフとともに在して之に仁慈を加え典獄の恩顧をこれにえさせたまいければ 22典獄獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付せたり 其処になす所の事は皆ヨセフこれをなすなり 23典獄そのまかせたる所の事は何をもかえりみざりき 其はエホバ、ヨセフとともにいませばなり エホバかれのなすところをさかえしめたもう

【創世記40】

1これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫その主エジプト王に罪をおかす 2パロその二人の臣すなわち酒人の長と膳夫の長を怒りて 3之を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚う ヨセフが繋れおる所なり……5茲に獄に繋れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜の中に各夢を見たり その夢はおのおの

その解明にかなう　6ヨセフ朝に及びて彼等の所に入りて視るに彼等物憂に見ゆ　7是に於てヨセフその主人の家に己とともに幽囚おるパロの臣に問うて 汝等なにゆえに今日は顔色あやしきやというに　8彼等これにいう　我等夢を見たれど之を解く者なしと ヨセフ彼等にいいけるは 解く事は神によるにあらずや請う我に述べよ

9酒人の長その夢をヨセフに述べて之にいう我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹あり　10その樹に三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たるがごとくなりき　11時にパロの爵 わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの爵に搾りその爵をパロの手に奉たり　12ヨセフ彼にいいけるはその解明は是のごとし 三の枝は三日なり　13今より三日の中にパロなんじの首を挙げ 汝を故の所にかえさん 汝は曩に酒人たりし時になせし如くパロの爵をその手に奉ぐるにいたらん　14然ば請う 汝善ならん時に我をおもいて我に恩恵をほどこし吾事をパロにのべてこの家よりわれを出せ　15我はまことにヘブル人の地より掠れ来しものなればなり また此にても我は牢にいれらるるがごとき事はなさざりしなり

16菓に膳夫の長その解明の善りしを見てヨセフにいう我も夢を得て見たるに白きパン三筐わが首にありて　17その上の筐には膳夫がパロのために作りたる各種の饌 ありしが鳥わが首の筐の中より之をくらえり　18ヨセフこたえていいけるはその解明はかくのごとし 三の筐は三日なり　19今より三日の中にパロ汝の首を挙げはなして汝を木に懸けん しかして鳥汝の肉をくらいとるべしと　20第三日はパロの誕辰なればパロその諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫の長をして首をその臣僕の中に挙しむ　21即ちパロ酒人の長をその職にかえしければ彼 爵 をパロの手に奉たり　22されど膳夫の長は木に懸らる ヨセフの彼等に解明せるがごとし　23然るに酒人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり

【創世記41】

1二年の後パロ夢ることあり即ち河（ナイル河）の浜にたちて　2視るに七の美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食う　3その後また七の醜き痩たる牛河よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが　4その醜き痩たる牛かの美しき肥たる七の牛を食いつくせり パロ是にいたりて寤む　5彼また寝て再び夢るに一の茎に七の肥たる佳き穂いできたる　6其のちに又しなびて東風に焼けたる七の穂いできたりしが　7その七のしなびたる穂かの七の肥実りたる穂を呑み尽せり パロ寤て見るに夢なりき　8パロ朝におよびてその心安からず人をつかわしてエジプトの法術士とその博士を皆ことごとく召し之にその夢を述べたり

然ど之をパロに解きうる者なかりき
9時に酒人の長パロに告げていう　我今日わが過ちをおもいいづ　10嘗てパロ
その僕を怒りて我と膳夫の長を侍衛の長の家に幽囚えたまいし時　11我と彼と
もに一夜のうちに夢み　各その解明にかなう夢をみたりしが　12彼処に侍衛の
長の僕なる若きヘブル人我らと偕にあり　我等これにのべたれば　彼われらの夢
を解きその夢にしたがいて各人に解明をなせり　13しかして其事かれが解きた
るごとくなりて我はわが職にかえり彼は木に懸らる
14是に於てパロ人をやりてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せり
……16ヨセフ、パロにこたえていいけるは　我によるにあらず　神パロの平安を
告げたまわん
17パロ、ヨセフにいう　我夢に河の岸にたちて見るに　18河より七の肥たる美
しき牝牛のぼりて葦を食う……
25ヨセフ、パロにいいけるは　パロの夢は一なり　神その為さんとする所をパ
ロに示したまえるなり　26七の美牝牛は七年　七の佳穂も七年にして夢は一なり
27其後にのぼりし七の痿たる醜き牛は七年にしてその東風にやけたる七の
空穂は七年の饑饉なり　28是はわがパロに申すところなり　神そのなさんとする
ところをパロにしめしたもう　29エジプトの全地に七年の大なる豊年あるべし
30その後に七年の凶年おこらん　而してエジプトの地にありし豊作を皆忘るに
いたるべし　饑饉国を滅さん……
37パロとその諸の臣僕此事を善とす　38是に於てパロその臣僕にいう　我等神
の霊のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと　39しかしてパロ、ヨセフ
にいいけるは　神是を尽く汝にしめしたまいたれば汝のごとく慧く賢き者な
かるべし　40汝わが家を宰るべし　わが民みな汝の口にしたがわん　唯位におい
てのみ我は汝より大なるべし　41パロ、ヨセフにいいけるは　視よ我汝をエジプ
ト全国の冢宰となすと　42パロすなわち指環をその手より脱して之をヨセフの
手にはめ之に白布を衣せ金の索をその項にかけ　43之をして己のもてる次の　輅
に乗らしめ　下にいよと其前に呼ばしむ　是彼をエジプト全国の冢宰となせり
44パロ、ヨセフにいいけるは　我はパロなりエジプト全国に汝の允准をえずし
て手足をあぐる者なかるべしと　45パロ、ヨセフの名をザフナテパネアと名け
またオンの祭司ポテパルの女アセナテを之にあたえて妻となさしむ……
51ヨセフその冢子の名をマナセ（忘）となづけて言う　神我をしてわが諸の
苦難とわが父の家の凡の事をわすれしめたもうと　52又次の子の名をエフライ
ム（多く生まる）となづけていう　神われをしてわが艱難の地にて多くの子をえ
せしめたもうと……55エジプト全国饑し時民さけびてパロに食物を乞う　パロ、

エジプトの諸の人にいいけるは ヨセフに往け彼が汝等にいうところをなせと……

【創世記42】

1ヤコブ、エジプトに穀物あるを見しかばその子等にいいけるは 汝等なんぞたがいに面を見あわするや……4されどヨセフの弟ベニヤミンはヤコブこれをその兄弟とともに遣さざりき おそらくは災難かれの身にのぞむことあらんと思いたればなり 5イスラエルの子等穀物を買わんとて来る者とともに来る 其はカナンの地に饑饉ありたればなり…… 8ヨセフはその兄弟をしりたれども彼等はヨセフをしらざりき 9ヨセフその昔に彼等の事を夢たる夢をを 憶いだし彼等に言いけるは 汝等は間者にして此国の隙を 窺んとて来れるなり 10彼等之にいいけるは わが主よ然らず唯糧食をかわんとて僕等は来れるなり 11我等はみな一箇の人の子にして篤実なる者なり 僕等は間者にあらず 12ヨセフ彼等にいいけるは 否汝等は此地の隙を窺んとて来れるなり 13彼等いいけるは 僕等は十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子なり 季子は今日父とともにおる又一人はおらずなりぬ 14ヨセフかれらにいいけるは わが汝等につげて汝等は間者なりといいしはこの事なり 15汝等斯してその真実をあかすべし パロの生命をさして誓う 汝等の末弟ここに来るにあらざれば汝等は此をいずるをえじ 16汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ……

18三日におよびてヨセフ彼等にいいけるは 我神を畏る汝等是なして生命をえよ 19汝等もし篤実なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繋れしめ汝等は穀物をたずさえゆきてなんじらの家々の饑をすくえ 20但し汝らの末弟を我につれきたるべし さすればなんじらの言の真実あらわれて汝等死をまぬかるべし 彼等すなわち斯なせり 21茲に彼らたがいに言いけるは 我等は弟の事によりて信に罪あり 我等は彼が我らに只管にねがいし時にその心の苦を見ながら之を聴かざりき 故にこの苦われらにのぞめるなり 22ルベンかれらに対ていいけるは 我なんじらにいいて童子に罪をおかすなかれといいしにあらずや然るに汝等きかざりき 是故に視よ亦彼の血をながせし罪をただされると 23彼等はヨセフが之を解するをしらざりき 其は互に通弁をもちいたればなり 24ヨセフ彼等を離れゆきて哭き復かれらにかえりて之とかたり遂にシメオンを彼らの中より取りその目のまえにて之を縛れり 25而してヨセフ命じてその器に穀物をみたしめ其人々の金を嚢に返さしめ又途の食を之にあたえしむ……

28彼その兄弟にいいけるは吾金は返してあり視よ嚢の中にありと 是において彼等肝を消し懼れてたがいに神の我らになしたもう此事は何ぞやといえり……

36その父ヤコブ彼等にいいけるは 汝等は我をして子を喪わしむ ヨセフはおらずなりシメオンもおらずなりたるにまたベニヤミンを取らんとす 是みなわが身にかかるなり 37ルベン父に告げていう 我もし彼を汝につれかえらずば吾ふたりの子を殺せ 彼をわが手にわたせ我之をなんじにつれかえらん 38ヤコブいいけるは わが子（ベニヤミン）はなんじらとともに下るべからず 彼の兄（ヨセフ）は死にて彼ひとり（ベニヤミン）遺りたればなり若なんじらが行ところの途にて災難かれの身におよばば汝等はわが白髪をして悲しみて墓にくだらしむるにいたらん

【創世記43】

3ユダ父にかたりていいけるは 彼人かたく我等をいましめていう 汝らの弟汝らとともにあるにあらざれば汝らはわが面をみるべからずと 4汝もし弟をわれらとともに遣さば我等下りて汝のために糧食を買うべし 5されど汝もし彼をつかわさずば我等くだらざるべし 其はかの人われらにむかい汝等の弟なんじらとともにあるにあらざれば汝ら吾面をみるべからずといいたればなりと 6イスラエル（ヤコブ）いいけるは汝等なにゆえに汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を悪くなすや 7彼等いう其人われらの模様とわれらの親族を問いただして汝らの父は尚生存えおるや汝等は弟をもつやといいしにより其言の條々にしたがいて彼につげたるなり 我等いかでか彼が汝等の弟をつれくだれというならんとしるをえん 8ユダ父イスラエルにいいけるは 童子をわれとともに遣せ我等たちて往かん 然らば我儕と汝およびわれらの子女生くることを得て死をまぬかるべし 9我彼の身を保わん汝わが手にかれを問え我もし彼を汝につれかえりて汝のまえに置かずば我永遠に罪をおわん 10我儕もし濡滞ことなかりしならば必ずすでにゆきて再びかえりしならん 11父イスラエル彼等にいいけるは 然ば斯なせ…… 14ねがわくは全能の神その人のまえにて汝等を矜恤みその人をして汝等の他の兄弟とベニヤミンを放ちかえさしめたまわんことを 若われ子に別るべくあらば別れんと 15是に於てかの人々その礼物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携えて起てエジプトにくだりヨセフの前に立つ

16ヨセフ、ベニヤミンの彼らと偕なるを見てその家宰にいいけるは この人々を家に導き畜を屠りて備えよこの人々卓午に我とともに食をなすべければなり…… 22又糧食を買う他の金をも手にもちくだる我等の金を嚢にいれたる者は誰なるかわれらは知ざるなり 23彼いいけるは 汝ら安ぜよ懼るなかれ汝らの神汝らの父の神財宝を汝等の嚢におきて汝らに賜いしなり 汝らの金は我にとどけりと 遂にシメオンを彼等の所にたずさえいだせり 24かくて其人こ

の人々をヨセフの家に導き水をあたえてその足を濯わしめ又その驢馬に飼草をあたう……

26 茲にヨセフ家にかえりしかば彼等その手の礼物を家にもちきたりてヨセフの許にいたり地に伏してこれを拝す 27 ヨセフかれらの安否をとうていう 汝等の父汝らが初にかたりしその老人は恙なきや尚いきながらえおるや 28 彼等こたえて われらの父汝の僕は恙なくしてなお生ながらえおるといい 身をかがめ礼をなす 29 ヨセフ目をあげてその母（ラケル）の子なる己の弟ベニヤミン（自分の血のつながっている実弟）を見ていいけるは 是は汝らが初に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや 又いう わが子よ願わくは神汝をめぐみたまわんことを と 30 ヨセフその弟のために心焚くるがごとくなりしかば急ぎてその泣くべきところを尋ね室にいりて其処に泣けり 31 而して面をあらいて出で自から抑えて食をそなえよという 32 すなわちヨセフはヨセフ彼等は彼等陪食する エジプト人はエジプト人と別々に之を供う 是はエジプト人ヘブル人と共に食することをえざるによる 其事エジプト人の穢わしとするところなればなり 33 かくて彼等ヨセフの前に坐るに長子をばその長たるにしたがいて坐らせ若き者をばその幼少にしたがいてすわらせければその人々駭きあえり 34 ヨセフ己のまえより皿を彼等に供う ベニヤミンの皿は他の人のよりも五倍おおかりき かれら飲みてヨセフとともに楽しめり

【創世記44】

1 茲にヨセフその家宰に命じていう この人々の嚢にその負うるほど糧食を充たせ各人の金をその嚢の口に置れ 2 またわが杯すなわち銀の杯を彼の少き者の嚢の口に置れてその穀物の金子とともにあらしめよと……4 かれら城邑をいでてなお程とほからぬにヨセフ家宰にいいけるは 起てかの人々の後を追いおいつきし時之にいうべし 汝らなんぞ悪をもて善にむくゆるや 5 其はわが主がもちいて飲み又用いて常にトう者にあらずや 汝らかくなすは悪しと……

16 ユダいいけるは 我等主に何をいわんや何をのべんや如何にしてわれらの正直をあらわさんや 神僕等の罪を摘発したまえり 然ば我等およびこの杯の見あたりし者倶に主の奴隷となるべし 17 ヨセフいいけるは きわめて然せじ杯の手に見あたりし人はわが奴隷となるべし 汝等は安然に父にかえりのぼるべし

18 時にユダかれに近よりていいけるは わが主よ請う僕をして主の耳に一言いうをえせしめよ…… 22 われら主にいえり童子父を離るをえず若父をはなるるならば父死すべしと 23 汝また僕等にいいたまわく 汝らの季の弟汝等とともに下るにあらざれば汝等ふたたびわが面を見るべからずと……29 なんじら是をも我側より取りゆかんに若災害是の身におよぶあらば遂にわが白髪をし

て悲しみて墓にくだらしむるにいたらんと 30 抑父の生命と童子の生命とは
相結びてあれば我なんじの僕わが父に帰りいたらん時に童子もしわれらと共
に在ずば如何ぞや 31 父童子の在ざるを見ば死ぬるにいたらん 然れば僕等なん
じの僕われらの父の白髪をして悲しみて墓にくだらしむるなり 32 僕わが父に
童子の事を保いて我もし是を汝につれかえらずば永久に罪を父に負わんとい
えり 33 されば請う僕をして童子にかわりおりて主の奴隷とならしめ童子をし
てその兄弟とともに帰りのぼらしめたまえ 34 我いかでか童子を伴わずして父
の許に上りゆくべけん 恐くは災害の父におよぶを見ん

【創世記45】

1 茲にヨセフその側にたてる人々のまえに自ら禁ぶあたわざるに至りけれ
ば人皆われを離れていでよと呼ばわれり 是をもてヨセフが己を兄弟にあかし
たる時 一人も之とともにたつものなかりき 2 ヨセフ声をあげて泣けり エジプ
ト人これを聞きパロの家またこれを聞く 3 ヨセフすなわちその兄弟にいいけ
るは 我はヨセフなり わが父はなお生ながらえおるやと 兄弟等その前に愕き
懼れて之にこたうるをえざりき 4 ヨセフ兄弟にいいけるは 請う我にちかよれ
とかれらすなわち近よりければ言う 我はなんじらの弟ヨセフなんじらがエジ
プトにうりたる者なり 5 されど汝等我をここに売りしをもて憂うるなかれ 身
を恨むるなかれ 神生命をすくわしめんとて我を汝等の前につかわしたまえる
なり 6 この二年のあいだ饑饉国の中にありしが尚五年の間耕すことも穫るこ
ともなかるべし 7 神汝等の後を地にたえんため又大なる救をもて汝らの生
命を救わんために我を汝等の前に遣したまえり 8 然ば我を此につかわしたる
者は汝等にはあらず 神なり 神われをもてパロの父となし その全家の主とな
しエジプト全国の宰となしたまえり…… 14 而してヨセフその弟ベニヤミンの
頸を抱えて哭くにベニヤミンもヨセフの頸をかかえて哭く 15 ヨセフ亦その諸
の兄弟に接吻し之をいだきて哭く 是のち兄弟等ヨセフと言う

●イスラエルの十二支派

今日のところはヨセフの生涯の大部分になります。ヤコブとレアの子供のユダからずっときて、エッサイ、ダビデ、ソロモンときて、最後にヨセフとマリヤ。それからイエスとこうなる。イエスはヨセフの子ではないけれども、聖霊の子ですけれども、こういう皮肉なことになった。ヨセフは兄弟といっても、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、この六人に対してはお母さんの違う兄弟です。ヨセフとベニヤミンはラケルの子です。

この間は「ヤボクの渡し」のお話をしました。創世記32章は非常に大事なところです。

イスラエルという名前がどうして生まれたか。それから35章のところにベニヤミンのことが出ています。16節、

「16**かくてヤコブ等ベテルよりいでたちしがエフラタに至るまでは尚路の隔（へだたり）ある処にてラケル産にのぞみその産おもかりき**

ヤコブの奥さんのラケルの出産です。

17**彼難産にのぞめる時産婆（とりあげおんな）之にいいけるは懼るなかれ汝また此男の子を得たり**18**彼死にのぞみてその魂さらんとする時**

古事記やなんかでも、「神去る」という言い方があるでしょ。「魂（たま）消える」とか「神去る」とか、死ぬことを「神去る」という。霊が去ることを「神去る」と言います。

その子の名をベノニ（吾苦痛（わがくるしみ）の子）と呼びたり然（され）ど其父即ちヤコブ、これをベニヤミン（右手の子）となづけたり」（創世記35・16～18）

「ベム・ヤミン」というのは右の手の子、「右手の子」

パウロが「ベニヤミンの族（やから）」だと言うでしょ。ベニヤミンというのはパウロの一番上の祖先です。

それで創世記35章23節から。ヤコブの子等は十二人いるといって、ずらっと並べて書いてある。即ち、さっき言った、レアの子がヤコブの長子ルベン――ルベンというのはなかなか立派な人格者だったようです、今日の話の中に出てきます――およびシメオン、レビ、ユダ――このユダが一番の正統派になるわけです――イッサカル、ゼブルン。妹のラケルの子が今日のお話の中心のヨセフ、それから今ちょっと言いましたベニヤミンです。

ラケルの仕女（つかえめ）ビルハの子はダンとナフタリ。レアの仕女のジルパの子がガドとアセル。これで十二人。イスラエルの十二支派というのはそういうわけです。それが創世記35章。創世記というのは非常に大事なところで、また面白いところですから、よく読んでおいてくださいね。

それから36章。これはヤコブの兄さんのエサウのことがいろいろと書いてある。まぁ大して関係ない。ただ36章20節に、

「20**素（もと）より此地に住（すまい）しホリ人」**

これは先住民族の中でもなかなか強いんです。穴居生活をしていた。

エサウは別名エドムになるわけで、ヤコブ即ち別名イスラエル。エドムとイスラエルは仲が悪い間柄です。イスラエルとサマリヤがそうでしたね。

●兄弟かれを嫉めり

そんなことで、今日は37章から行きましょう。これは１９４０年の秋に、今から37年前

にこの辺を初めてずっとやったわけですが。

1ヤコブはカナンの地に住めり　即ちその父が寄寓し地なり　2ヤコブの伝は
左のごとし　ヨセフ十七歳にしてその兄弟と偕に羊を牧う

さっき言った六人の後の七番目、但し異母弟です。

ヨセフは童子にしてその父の妻ビルハの子
およびジルパの子

即ちラケルの婢女の子、ガドとアセルです。

と侶たりしが

一緒にいたと。だから、全部一緒だな。

彼等の悪き事を父につぐ

どうも少し性質が悪いと。

3ヨセフは老年子なるが故にイスラエルその諸の兄弟よりも深くこれを愛し

即ち末っ子だもんだから、末っ子で可愛がられた。

これがために綵る衣を製れり

長袖の衣をつくってやった。

4その兄弟等父がその諸の兄弟よりも深く彼を愛するを見て彼を悪み穏和に
彼にものいうことを得せざりき

また妬んだわけだ、「彼を悪み」というのは。まぁよくあるようなことです。

5茲にヨセフ夢をみてその兄弟に告げければ彼等　愈　これを悪めり

どんな夢かというと、

ヨセフ彼等にいいけるは　請うわが夢たる此夢を聴け　7我等田の中に禾束をむ
すび居たるにわが禾束おき且立てり　而して汝等の禾束環りたちてわが禾束を
拝せり

なんて言った。けしからん夢を見たというわけです。

8その兄弟等之にいいけるは　汝真にわれらの君となるや真に我等をおさむる
にいたるやと　その夢とその言のために益これを悪めり　9ヨセフ又一つの夢
をみて之をその兄弟に述べていいけるは　我また夢をみたるに日と月と十一の
星われを拝せりと

即ち日はお父さん、月はお母さん、十一の星は兄貴たち、こういうわけですよ。それでいよいよ彼を妬んだと書いてある。

10則ちこれをその父と兄弟に述べければ父かれを戒めて彼にいう　汝が夢しこ
の夢は何ぞや我と汝の母となんじの兄弟と実にゆきて地に鞠て汝を拝するに
いたらんやと　11斯しかばその兄弟かれを嫉めり　然どその父はこの言をおぼ

えたり
お父さんはこの言葉を覚えていた。

●ヨセフ奴隷としてエジプトへ

12 **茲にその兄弟等シケムにゆきて父の羊を牧いいたりしかば** 13 **イスラエル、ヨセフにいいけるは汝の兄弟はシケムにて羊を牧いおるにあらずや来れ汝を彼等につかわさん ヨセフ父にいう 我ここにあり** 14 **父かれにいいけるは 請う往きて汝の兄弟と群の恙なきや否を見てかえりて我につげよと 彼をヘブロンの谷より遣わしければ遂にシケムに至る。**

ドタンでもってその兄弟の後に追い着いたわけです。これはシケムの北の方24キロ位の所です。ガリラヤ湖より少し南になります。

18 **ヨセフの彼等に近かざる前に彼ら之を遙かに見てこれを殺さんと謀り** 19 **互にいいけるは視よ作夢者きたる**

あれは夢を見るけしからんやつが来た。「バール・ハッローモートゥ」「もろものの夢を見る者」という。「夢」というのはヘブライ語で「ハッローム」という。「バール」というのは「主人、所有者」。「夢見る者、夢の大将」とでも言いましょうか。

去来彼をころして阱に投げいれ或悪き獣これを食いたりと言わん而して彼の夢の如何になるかを観るべし

と、悪巧みを考えた。そうすると、一番上の兄さんルベンが、

21 **ルベン聞きてヨセフを彼等の手より拯いださんとして言いけるは 我等これを殺すべからず**

ヨセフを殺してはいかんと。

22 **ルベンまた彼らにいいけるは 血をながすなかれ 之を曠野の此阱に投げいれて手をこれにつくるなかれと 是は之を彼等の手よりすくいだして父に帰さんとてなりき**

まぁ穴に入れることは仕方がないとしても、手を下してはいかん、殺してはいかんと。そしてルベンは秘かに後でこれを助けてやろうと、そう思った。

23 **茲にヨセフ兄弟の許に到りければ彼等ヨセフの衣即ちその着たる綵る衣を褫ぎ**

他のと違ったいい衣を着ていたので、

24 **彼を執えて阱に投げいれたり 阱は空にしてその中に水あらざりき**

25 **斯して彼等坐りてパンを食い目をあげて見しに一群のイシマエル人**

イシマエルというのはアブラハムの婢女のハガルの子ですね。イシマエルはハガルと一緒に曠野に追いやられてしまったから、それでイシマエル人の隊商ということになるわけで

す。妙な関係だから。

駱駝に香物と乳香と沒薬

よく出てきますね、こういうものは。

をおわせてエジプトにくだりゆかんとてギレアデより来る 26**ユダその兄弟に**
いいけるは

さっきの四番目ユダです。ルベン、シメオン、レビ、ユダ。レビというのはまた大事な仕事で坊さんになる。

我儕弟をころしてその血を匿すも何の益かあらん

何になるかと。

27**去来彼をイシマエル人に売らん**

奴隷として売ってしまおうじゃないかと。

彼は我等の兄弟われらの肉なればわれらの手をかれにつくべからずと

血を流すということは非常な罪だから、「血は生命のあるところ」というわけでね。ユダがまたルベンと同じようにそう言った。

兄弟等これを善とす

じゃぁ、まぁそうしようと。

28**時にミデアンの商旅経過ければヨセフを阱よりひきあげ 銀二十枚にてヨセ**
フをイシマエル人に売り 彼等すなわちヨセフをエジプトにたずさえゆきぬ

隊商に連れられてとうとうヨセフはエジプトに売られてしまう。

29**茲にルベンかえりて阱にいたり見しにヨセフ阱におらざりしかば**

これはちょっと時間が狂ってしまったんだな。

その衣を裂き 30**兄弟の許にかえりて言う童子はおらず嗚呼我何処にゆくべき**
や

どこへ行ったらいいだろう。

31**斯て彼等ヨセフの衣をとり牡山羊の羔をころしてその衣を血に濡し**

いかにも猛獣にやられたようにしたわけです。

32**その綵る衣を父におくり遣していいけるは 我等これを得たりなんじの子の**
衣なるや否やを知れと 33**父これを知りていう わが子の衣なり悪き獣彼をくら**
えりヨセフはかならずさかれしならんと 34**ヤコブその衣を裂き麻布を腰にま**
とい久しくその子のためになげけり

そして久しくその子のために嘆いていたと。

35**その子 女みな起てかれを慰むれどもその慰謝をうけずして 我は哀きつつ**
陰府にくだりて我子のもとにゆかんという

そんな慰めはとてもきかない。自分はもう悲しみのあまりに死んで子供のところへ行った

方がましだと言うわけだ。それくらいヨセフを顧みていた。アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフとくるわけですから。

斯その父かれのために哭ぬ　36偖ミデアン人はエジプトにてパロの侍衛の長ポテパルにヨセフを売れり

パロというのはエジプトの王様。そこで今度はユダの子等とタマルという女性のゴタゴタしたことが書いてある。そんなことは省きます。38章は自分で読んでおいてください。

●ヨセフ獄に繋がれる

今日はヨセフの話だから39章に行きます。侍衛長ポテパルのところでヨセフは働くわけです。

1ヨセフ挈えられてエジプトにくだりしがエジプト人ポテパル、パロの臣侍衛の長なる者彼を其処にたずさえくだれるイシマエル人の手よりこれを買う2エホバ、ヨセフとともに在す

こういう筆が非常にはっきり、時々力強く出ています。神様はヨセフと共におられると。神様の力でもってヨセフはぐんぐん実力を現わしてしまうわけです。

3その主人エホバの彼とともにいますを見 またエホバがかれの手の凡てなすところを享通しめたもうを見たり

異邦人だけれども、いかにも神が共にいることがわかってきたんだな。

4是によりてヨセフ彼の心にかないて其近侍となる

即ちポテパルの心にかなって、側近となったわけだ。

彼ヨセフにその家を宰どらしめその所有を尽くその手に委ねたり

えらいことになってしまった。絶対の信頼を受けた。

5彼ヨセフにその家とその有てる凡の物をつかさどらせし時よりしてエホバ、ヨセフのために其エジプト人の家を祝みたもう

よく認識した、またよく信頼したと。神様の方から今度は恵みがやって来た。

即ちエホバの祝福かれが家と田に有る凡の物におよぶ　6彼その有る物をことごとくヨセフの手にゆだねその食うパンの外は何もかえりみざりき

大変なもんです。食べる物さえあればあとはみんなお前に委ねると。

夫ヨセフは容貌麗しくして顔美しかりき

なかなか美男子だったんだね。美男子だもんだから、ちょっと誘惑がくるわけです。

7これらの事の後その主人の妻

ポテパルの妻、

ヨセフに目をつけて我と寝よという

自分と寝てくださいなんて言った。

8 **ヨセフ拒みて主人の妻にいいけるは　視よわが主人の家の中の物をかえりみずその有るものことごとくわが手に委ぬ　9 この家には我より大なるものなし**
又主人何をも我に禁ぜず只汝を除くのみ
奥さんに手をかけてはうまくない。
汝はその妻なればなり　然ば我いかで此おおいなる悪をなして神に罪をおかすをえんや

ところが、ポテパルの奥さんは更に誘惑して、

10 **彼日々にヨセフに言いよりたれどもヨセフきかずして之といねず　亦与におらざりき**

誰もいない時があった。

11 **当時ヨセフその職をなさんとて家にいりしが家の人一箇もその内におらざりき　12 時に彼婦その衣を執えて我といねよといいければヨセフ衣を彼の手に棄ておきて外に遁げいでたり　13 彼ヨセフがその衣を己の手に棄ておきて遁げいでしを見て　14 その家の人々を呼びてこれにいう　視よヘブル人を我等の所につれ来て我等にたわむれしむ　彼我といねんとて我の所にいり来しかば我大声によばわれり　15 彼わが声をあげて呼ばわるを聞きしかばその衣をわが許にすておきて外に遁げいでたりと**

と言って、逆のことを言っているんだ。悪いことをしたからこっちが大声で呼んだら、彼はあわてて衣をすてて逃げて行ってしまったと、こう言う。これ悪い女だね。そういうようなことを言って、讒訴したわけだ。ヘブルの僕ヨセフはけしからん奴だと言って、今度は主人に逆に訴えた。

19 **主人その妻が己につげて汝の僕斯のごとく我になせりという言を聞きて怒りを発せり**

そして、とうとう牢屋につないでしまった。

20 **是に於てヨセフの主人彼を執えて獄にいる　其獄は王の囚徒を繋ぐ所なりヨセフ彼処にて獄におりしが　21 エホバ、ヨセフとともに在して之に仁慈を加え典獄の恩顧をこれにえさせたまいければ**

そんなことであっても、神様はヨセフの無実を知っていらっしゃるから、エホバ、ヨセフと共にいまし、

22 **典獄獄にある囚人をことごとくヨセフの手に付せたり**

おもしろいことになったね、

其処になす所の事は皆ヨセフこれをなすなり

何か知らんけれど、不思議な力がヨセフにあるものだから、

3 **典獄そのまかせたる所の事は何をもかえりみざりき 其はエホバ、ヨセフとともにいませばなり**

何も自分が悪かったのではない。相手が悪かったんだから、

エホバかれのなすところをさかえしめたもう

牢屋にいても、パウロは牢屋にいたけれども、何にも心配いらん。彼は「喜び喜べ」という手紙を書いている。

「自分の身体は繋がれていても、神様の言葉は自由である」

というような。

●二人の臣の夢の解明

40章に行きますと、

1 **これらの事の後エジプト王の酒人と膳夫その主エジプト王に罪をおかす**
2 **パロその二人の臣すなわち酒人の長と膳夫の長を怒りて**
3 **之を侍衛の長の家の中なる獄に幽囚う ヨセフが繋れおる所なり**

ヨセフが繋がれていた所と同じ所に入ってしまった。ところが、

5 **茲に獄に繋れたるエジプト王の酒人と膳夫の二人ともに一夜の中に各夢を見たり その夢はおのおのその解明にかなう**
6 **ヨセフ朝に及びて彼等の所に入りて視るに彼等物憂に見ゆ**
7 **是に於てヨセフその主人の家に己とともに幽囚おるパロの臣に問うて 汝等なにゆえに今日は顔色あやしきやというに**
8 **彼等これにいう 我等夢を見たれど之を解く者なしと ヨセフ彼等にいいけるは 解く事は神によるにあらずや 請う我に述べよ**

人間の心ではないと、神様が解いてくださると。ヨセフは神の霊によってこれを解く。

「解くことは神によるにあらずや」

というのは大事な言葉、我々にとっては、

「聖霊によるにあらずや」

ということです。それでヨセフは酒人の長の夢を聞いた。

9 **酒人の長その夢をヨセフに述べて之にいう我夢の中に見しにわが前に一の葡萄樹あり**
10 **その樹に三の枝あり芽いで花ひらきて葡萄なり球をなして熟たるがごとくなりき**
11 **時にパロの爵わが手にあり我葡萄を摘てこれをパロの爵に搾りその爵をパロの手に奉たり**
12 **ヨセフ彼にいいけるはその解明は是のごとし**

インスピレーションでわかってしまうわけです、神様の霊でね。

三の枝は三日なり
13 **今より三日の中にパロなんじの首を挙げ 汝を故の所にかえさん 汝は曩に酒人たりし時になせし如くパロの爵をその手に奉ぐるにいた**

らん 14然ば請う 汝善ならん時に我をおもいて我に恩恵をほどこし吾事をパロ
にのべてこの家よりわれを出せ 15我はまことにヘブル人の地より掠れ来しも
のなればなり また此にても我は牢にいれらるるがごとき事はなさざりしなり
ということをはっきり言って、それを伝えろというわけです。それから膳夫の長の方の夢
をまた解いた。同じような夢です。中味は違うけれどもね。
16茲に膳夫の長その解明の善りしを見てヨセフにいう我も夢を得て見たる
に白きパン三筐わが首にありて 17その上の筐には膳夫がパロのために作りた
る各種の饌 ありしが鳥わが首の筐の中より之をくらえり 18ヨセフこたえて
いいけるはその解明はかくのごとし 三の筐は三日なり 19今より三日の中にパ
ロ汝の首を挙げはなして汝を木に懸けん しかして鳥汝の肉をくらいとるべし
と
今度はえらいことになってしまった。こっちの方は、殺されて死体が野ざらしになって鳥
に食われてしまうという話だね。
20第三日はパロの誕辰なればパロその諸の臣僕に筵席をなし酒人の長と膳夫
の長をして首をその臣僕の中に挙しむ 21即ちパロ酒人の長をその職にかえし
ければ彼 爵 をパロの手に奉たり
さっきの通り、酒人の長はいいけれども、
22されど膳夫の長は木に懸らる ヨセフの彼等に解明せるがごとし 23然るに酒
人の長ヨセフをおぼえずして之を忘れたり
片一方は救われ、片方は殺されてしまったと、こういうわけだね。

●パロの夢明かし

今度はパロが夢見たんだな。41章。

1二年の後パロ夢ることあり即ち河（ナイル河）の浜にたちて 2視るに七の
美しき肥たる牝牛河よりのぼりて葦を食う 3その後また七の醜き痩たる牛河
よりのぼり河の畔にて彼牛の側にたちしが 4その醜き痩たる牛かの美しき肥
たる七の牛を食いつくせり パロ是にいたりて寤む
妙な夢を見たと。
5彼また寝て再び夢るに一の茎に七の肥たる佳き穂いできたる 6其のちに又
しなびて東風に焼けたる七の穂いできたりしが 7その七のしなびたる穂かの
七の肥実りたる穂を呑み尽せり パロ朝におよびて
その心安からず人をつかわしてエジプトの法術士とその博士を皆ことごとく
召し之にその夢を述べたり 然ど之をパロに解きうる者なかりき
みんなわからない。どうにもならんと。

前に夢の明かしをヨセフがしたことを知っているから、そこであの人ならわかると、こういうわけですね。

9時に酒人の長パロに告げていう
我今日わが過ち(あやま)をおもいいづ 10嘗(かつ)てパロその僕を怒りて我と膳夫の長を侍衛
の長の家に幽囚(とら)えたまいし時 11我と彼ともに一夜のうちに夢み各(おのおの)その解明
にかなう夢をみたりしが 12彼処(かしこ)に侍衛の長の僕なる若きヘブル人我らと偕に
あり我等これにのべたれば彼われらの夢を解きその夢にしたがいて各人に解
明をなせり 13しかして其事かれが解きたるごとくなりて我はわが職にかえり
彼は木に懸(かけ)らる

と、こういうわけだな。

14是に於てパロ人をやりてヨセフを召しければ急ぎてこれを獄より出せり

ヨセフの夢明かしが今度は力になってパロに出されることになる。

16ヨセフ、パロにこたえていいけるは 我によるにあらず 神パロの平安を告げ
たまわん

どこまでもヨセフは神様を立てて、自分ができるなんてそういうことを彼は言わない。

「私ではない、神様だ。私は神様が示してくださることを言っているだけの話だ」

と。これがヨセフの魂の桁違いに無者なんだね。自分を何者ともしていない。

「私は大分霊的になった。夢明かすことのできる力がある」

とか、そういうことは彼は思わない。

「神様であって、私ではありません」

と。これが信仰の非常に大事なところです。とにかく信仰が進むと、思い上がる。どこまでも平伏しの魂が大事です。

17パロ、ヨセフにいう 我夢に河の岸にたちて見るに 18河より七の肥たる美し
き牝牛のぼりて葦を食う……

夢見てこうだったと。さっきのことが全部、聖書には同じことがくどくどしく書いてある。これはヘブライ人の書き方なんだね。そうしたらヨセフはパロに言うのに、

25ヨセフ、パロにいいけるは パロの夢は一(ひとつ)なり

同じことだと。二通り夢をごらんになったけれども、中味は同じことで一つなんだと。

神その為さんとする所をパロに示したまえるなり 26七の美(よき)牝牛は七年 七の佳(よき)
穂も七年にして夢は一なり 27其後にのぼりし七の瘠(やせ)たる醜き牛は七年にして
その東風にやけたる七の空穂(しいなほ)は七年の饑饉なり

七年の豊作の後に七年の饑饉がやってくると。こういうことです。だから、

28是はわがパロに申すところなり 神そのなさんとするところをパロにしめし
たもう 29エジプトの全地に七年の大なる豊年あるべし 30その後に七年の凶年(きょうねん)

おこらん 而してエジプトの地にありし豊作を皆忘るにいたるべし 饑饉国を滅さん

豊作の時にいい気になって使ってしまうというと、今度は饑饉がやってきてどうにもなりませんよというわけで、そこでパロは夢明かしができたものですから。大いにヨセフを用いるわけです。そのことがずっと書いてあります。そして37節、

37パロとその諸の臣僕此事を善とす 38是に於てパロその臣僕にいう 我等神の霊のやどれる是のごとき人を看いだすをえんやと

パロも自分に信仰があるわけではないけれども、神様の人だということがわかるものだから、

「我等神の霊のやどれる是のごとき人を看いだすをえんや」

と、著しい言葉ですね。「やどる」というのは、

「……の中に在る」「神の霊がその人の中に」

と書いてある。神の霊がその人の中に在る、そういった人。

「聖霊を宿さざる者はキリスト者にあらず」

とパウロが言った。神の霊を宿さざる者は人に非ず。本当はそうなんです。だから、霊が止まるというのを「霊止」という。素晴らしい言葉だね。本当に霊止となればもうそれでいいんです、神霊が止まっている霊止になれば。

「ヨセフ」という名前は「加えられたる者」という意味だよ。たくさんの兄弟の中から最後に加えられた。それが即ちヨセフ、プラス的存在です。

39しかしてパロ、ヨセフにいいけるは 神是を 尽く汝にしめしたまいたれば 汝のごとく慧く賢き者なかるべし

お前は本当の賢者だと。

40汝わが家を 宰るべし

「わが家」というのは国家のことだ。国の宰相にすると、すぐ後に書いてある。

わが民みな汝の口にしたがわん 唯位においてのみ我は汝より大なるべし 41パロ、ヨセフにいいけるは 視よ我汝をエジプト全国の冢宰となすと

●神の僕

どうだな、今の国に一国の首相が、

「神の霊かくの如く宿れる者ありや」

というような首相がいるかね。いないね、全世界にも。政治の中心を担ったヨセフは神霊の宿れる者です。政治家が本当にヨセフの如く神霊が宿ってきたら、これは本当なんだけれども、みんな今の政治家は落第です。「政治と宗教」なんてことを問題にするけれども、政治をつかさどろうが、あるいは実業家であろうと、学者であろうと、何をしようが、そ

の人間の中心に神霊が宿っていることが本質的なことなんです。何も宗教と政治を同列に考えてどうのこうのじゃない。違うんだ次元が。営む主体が人間である限り、主体なる人間が神の奴隷にならなければダメなんです。

マルティン・ルッターは、またパウロが、神様の僕、キリストの僕と、

「自分は本当にキリストの僕」

と言った。神様の僕となってこそ、本当に自主性というのが出てくる。「自主、自由」なんていうものはみんなそうです。今の神抜きの自主、自由はみんな自我になって、我執になる。我執になったら万事うまくいかないに決まっている。

キリストは神の僕、僕者。僕、婢女。即ち神の意志を行ずる者を僕といいます。だから、本当の宰相は神の僕とならなければダメです。ヨセフは正に神霊が宿っていますから、神霊にこれ従うんですから、神霊に対しては僕である。私が今日の題に、ただ「ヨセフ」と名前だけ書いのは、ヨセフという人間そのものの全存在の響きを伝えたかったからです。

42 **パロすなわち指環をその手より脱して之をヨセフの手にはめ之に白布を衣**
せ金の索をその項にかけ

彼に金の鎖をやったりね、そんなものはヨセフにはどうだっていいんだ。どうだっていけれども、貰って偉そうな恰好になった。

43 **之をして己のもてる次の輅に乗らしめ下にいよと其前に呼ばしむ**

「下におれ、下におれ」と、昔の大名の「下に、下に」と似ているね。「下にいよ」というのはヘブライ語で「アプレイク」という。「膝まづけ、ぬかづけ」ということと同じです。これは正に東と西と同じだね。

是彼をエジプト全国の冢宰となせり

なにもヨセフは成りたくはないよ。けれども、パロがこういうやつだから。

44 **パロ、ヨセフにいいけるは 我はパロなりエジプト全国に汝の允准をえずして手足をあぐる者なかるべしと**

大変なことになった。一挙手、一投足もヨセフの許可なくてはできないとまで極言してしまった。

45 **パロ、ヨセフの名をザフナテパネアと名け**

これはエジプト語です。「ザフナテパネア」というのは「神語り給う、されば彼は生く」という意味だそうです。「エホバは生く」と言って誓うね、ヘブライ人は。これは「神語る、されば彼は生く」と、面白いことが書いてある。

またオンの祭司ポテパルの女アセナテを之にあたえて妻となさしむ

エジプトの女と結婚したようなことになってしまった。ヨセフとアセナテの間にできたのがマナセとエフライムです。

51 **ヨセフその冢子の名をマナセ（忘）**

「忘れる」という字です。苦しみを忘れるという意味なんだろうな。

となづけて言う 神我をしてわが諸(もろもろ)の苦難とわが父の家の凡の事をわすれしめたもうと

それでもって「マナセ」（忘）という名前をつけた。

52 **又次の子の名をエフライム（多く生まる）となづけていう 神われをしてわが艱難(なやみ)の地にて多くの子をえせしめたもうと**

「エフライム」というのは、「多くの子を得る」という、「多産」という意味です。エフライムという言葉はイスラエルの代りのような言葉に出てくる。マナセ、エフライムというのがここにできた。

55 **エジプト全国饑(うえ)し時民さけびてパロに食物を乞う パロ、エジプトの諸の人にいいけるは ヨセフに往け彼が汝等にいうところをなせと**

と言って、パロはエジプトのすべての人に伝えた。ヨセフの命令が絶対だから。

●兄弟たち穀物を買いにエジプトへ

今度は42章に行きます。それからだんだん今日のドラマティックなところに入るわけです。

1 **ヤコブ、エジプトに穀物あるを見しかばその子等にいいけるは 汝等なんぞたがいに面(かお)を見あわするや**

饑饉になってきた。それでエジプトには穀物があるから、あそこに行ってもらってこい、買ってこいと、まぁ言うわけでね。

4 **されどヨセフの弟ベニヤミンはヤコブこれをその兄弟とともに遣(つかわ)さざりき**

兄弟みんなを遣わした。けれどもヨセフの弟ベニヤミンだけはヤコブ即ちイスラエルは自分のところに置いておいた。

おそらくは災難かれの身にのぞむことあらんと思いたればなり 5 **イスラエルの子等穀物を買わんとて来る者とともに来る 其はカナンの地に饑饉ありたればなり……** 8 **ヨセフはその兄弟をしりたれども彼等はヨセフをしらざりき**

ヨセフがあまり大きくなってしまって、また立派になってしまったから、自分の弟とはわからない。ことに腹違いだからなおさらわからないですね。

9 **ヨセフその昔(むかし)に彼等の事を夢(ゆめ)たる夢ををを憶(おもい)いだし**

即ち、束ねたものがみんな自分を拝んだということになってしまったわけだ、あの夢の通りに。兄さんたちが自分のところに頭を下げてやってきたわけですよ。全くうそみたいな本当の話だよ。事実は小説より奇なりというわけだ。ところが、ヨセフはわざとこんなことを言ったらしい。

彼等に言いけるは 汝等は間者にして此国の隙(すき)を 窺(うかがわ)んとて来れるなり 10 **彼等**

之にいいけるは わが主よ
スパイだろうと言った。兄弟たちはヨセフに向かって「わが主よ」と、
然らず唯糧食をかわんとて僕等は来れるなり 11**我等はみな一箇(ひとり)の人の子にして篤実(まこと)なる者なり 僕等は間者にあらず**
スパイじゃありませんと、
12**ヨセフ彼等にいいけるは 否(いな)汝等は此地の隙を窺んとて来れるなり** 13**彼等いいけるは 僕等は十二人の兄弟にしてカナンの地の一箇の人の子なり**
ヤコブの子だと、
季子(すえのこ)は今日父とともにおる又一人はおらずなりぬ
ヤコブ即ちイスラエルと一緒にいまして、こっちには来てませんと。もう一人はいなくなったと。このヨセフのことだよ。
14**ヨセフかれらにいいけるは わが汝等につげて汝等は間者なりといいしはこの事なり** 15**汝等斯してその真実をあかすべし パロの生命をさして誓う 汝等の末弟ここに来るにあらざれば汝等は此をいずるをえじ**
一番終りのベニヤミンをここに遣(つかわ)さなければ出すわけにはいかんと。もうちゃんとわかっているんだ、ヨセフの方では。
16**汝等の一人をやりて汝等の弟をつれきたらしめよ……**
まぁいろいろとありますが、面白いですよね。
18**三日におよびてヨセフ彼等にいいけるは 我神を畏る汝等是なして生命をえよ** 19**汝等もし篤実(まこと)なる者ならば汝らの兄弟の一人をしてこの獄に繋れしめ**
人質だよ、
汝等は穀物をたずさえゆきてなんじらの家々の饑(うえ)をすくえ 20**但し汝らの末弟を我につれきたるべし さすればなんじらの言の真実(まこと)あらわれて汝等死をまぬかるべし 彼等すなわち斯(かく)なせり** 21**茲に彼らたがいに言いけるは 我等は弟の事によりて信(まこと)に罪あり**
弟のことによって悪いことをしたと、
我等は彼が我らに只管(ひたすら)にねがいし時にその心の苦を見ながら之を聴かざりき故にこの苦われらにのぞめるなり 22**ルベン**
即ち一番上のルベンが殺してはいかんと言ったでしょ、あの一番上の兄さん。
かれらに対(こたえ)ていいけるは 我なんじらにいいて童子(わらべ)に罪をおかすなかれといいしにあらずや 然るに汝等きかざりき 是故に視よ亦彼の血をながせし罪をただ さると
はっきりと報いがきてしまった、因果応報だ、天罰覿面(てきめん)だと、こういうわけですよ。ヨセフはこれを聞いていながら、ちゃんとわかっているんだよ。

23**彼等はヨセフが之を解するをしらざりき**
ヨセフはちゃんとそういうことがわかっていることを、彼らはまさか相手がヨセフだと思わないからね。
其は互に通弁(つうべん)をもちいたればなり 24**ヨセフ彼等を離れゆきて哭(な)き**
ヨセフはさすが兄さんたちがそう言って昔のことを言っているのをたまらなくなって、座をはずして泣いたと書いてある。

●シメオン人質になる
復(また)かれらにかえりて之とかたり遂にシメオン
シメオンは二番目の兄さん、
を彼らの中より取りその目のまえにて之を縛れり
人質にするのでね。
25**而してヨセフ命じてその器に穀物をみたしめ其人々の金を嚢(ふくろ)に返さしめ又**
途の食を之にあたえしむ
至れり尽くせりです。お金を持ってきてこれで買うと言ったら、そんなお金は要らないと、みんな入れてしまって、食糧はうんとやってですね、絶対恩寵ですよ。そしてシメオンだけは本当にベニヤミンをつれてくるか、その人質とするというわけだ。そこでヨセフの兄弟たちはみんなカナンへ帰って行った。途中でもって、金は返ってあるじゃないか。袋の中に金はある。おれたちは払ったつもりなのにまた戻っているのはどうしたことかと。
28**彼その兄弟にいいけるは吾金は返してあり視よ嚢の中にありと 是において**
彼等肝を消し懼れてたがいに神の我らになしたもう此事は何ぞやといえり
「このことは何ぞや」と言って、みんなが懼れたと書いてある。肝をつぶしたと。それでヤコブの所へ行って、一部始終を語ったわけだ。ずっと書いてある。いちいち読みません。そして袋を開けたところが、お金が入っているのでおったまげてしまった。
36**その父ヤコブ彼等にいいけるは 汝等は我をして子を喪(うしな)わしむ ヨセフはおら**
ずなりシメオンもおらずなりたるに
しかも今度はシメオンも人質になってしまったからね、いなくなってしまった。
またベニヤミンを取らんとす 是みなわが身にかかるなり
ベニヤミンもいなくなってしまったらとんでもないと、お父さんの方ではすっかり怒り悲しんでしまった。
37**ルベン父に告げていう 我もし彼を汝につれかえらずば吾(わが)ふたりの子を殺せ**
彼をわが手にわたせ 我之をなんじにつれかえらん
ルベンに子供がいたが、どうぞそれを殺してください、私は誓いますから。必ず連れて戻りますと。さすがにこのルベンというのは、一番上の兄さんは言うことが違う。

38 **ヤコブいいけるは わが子（ベニヤミン）はなんじらとともに下るべからず 彼の兄（ヨセフ）は死にて彼ひとり（ベニヤミン）遺(のこ)りたればなり**
どうしてベニヤミンを渡すことができるかと。さすがに素晴らしいもっともな話です。
若なんじらが行ところの途にて災難かれの身におよばば汝等はわが白髪をして悲しみて墓にくだらしむるにいたらん
さぁ困ってしまったね。
今度は43章です。饑饉でエジプトから持ってきた穀物をみんな食べてしまったものだから、また食糧を買いに行かなければならないと。
3 **ユダ父にかたりていいけるは**
四番目ユダがまたなかなか知恵がある。
彼人(かのひと)かたく我等をいましめていう 汝らの弟汝らとともにあるにあらざれば汝らはわが面をみるべからずと 4 **汝もし弟をわれらとともに遣(つかわ)さば我等下りて汝のために糧食を買うべし** 5 **されど汝もし彼をつかわさずば我等くだらざるべし**
ユダがはっきりとお父さんにそう言ったわけです。
其はかの人われらにむかい汝等の弟なんじらとともにあるにあらざれば
即ちベニヤミンが一緒でなければ、
汝ら吾面をみるべからずといいたればなりと 6 **イスラエル（ヤコブ）いいけるは 汝等なにゆえに汝等に尚弟のあることを彼人につげて我を悪くなすや**
余計なことを言ったと。
7 **彼等いう其人われらの模様(ありさま)とわれらの親族を問いただして汝らの父は尚生存(いきながら)えおるや汝等は弟をもつやといいしにより**
まぁ偽るわけにいきませんでしたというわけだな。
其言の條々(かどかど)にしたがいて彼につげたるなり 我等いかでか彼が汝等の弟をつれくだれというならんとしるをえん 8 **ユダ父イスラエルにいいけるは 童子(わらべ)をわれとともに遣せ我等たちて往かん 然らば我儕(われら)と汝およびわれらの子女(こども)生くることを得て死をまぬかるべし** 9 **我彼の身を保(うけあ)わん汝わが手にかれを問え我もし彼を汝につれかえりて汝のまえに置かずば我永遠に罪をおわん**
自分自身が彼の保証、かたとなりますと。だから、ユダははっきりと今度は自分が全責任を負う、命懸けで責任を負うというわけです。
10 **我儕(われら)もし濡滞(ためらう)ことなかりしならば必ずすでにゆきて再びかえりしならん** 11 **父イスラエル彼等にいいけるは 然(しか)ば斯(かく)なせ**
と言って、とうとう往くように、今度は二倍に金を持って往けと。蜜や何かをたくさん持って往けと。金を返されたけれどもだめだ、二倍持って往けと。あの金を再び手にたずさ

えて行きなさい、あの金は受けとれない。きっと間違いだったのだろうと。そんなことを言った。

4 **ねがわくは全能の神その人のまえにて汝等を矜恤(あわれ)みその人をして汝等の他の兄弟と**
即ち人質になっているシメオンと今度連れて行く、
ベニヤミンを放ちかえさしめたまわんことを 若(もし)われ子に別るべくあらば別れんと

さすがに今度はイスラエルも魂を据えてそう言った。非常に劇的によくまぁ書いてあるもんだね。

15 **是に於てかの人々その礼物を執り一倍の金を手に執りベニヤミンを携えて起(たち)てエジプトにくだりヨセフの前に立つ**
16 **ヨセフ、ベニヤミンの彼らと偕なるを見てその家宰(いえづかさ)にいいけるは この人々を家に導き畜(けもの)を屠りて備(ととの)えよこの人々卓午(ひる)に我とともに食をなすべければなり**

そこでもって饗宴になるわけです。そして、

22 **又糧食を買う他の金をも手にもちくだる我等の金を嚢(ふくろ)にいれたる者は誰なるかわれらは知ざるなり** 23 **彼いいけるは 汝ら安ぜよ懼(おそる)るなかれ 汝らの神汝らの父の神財宝(たから)を汝等の嚢におきて汝らに賜いしなり**

私がしたのではない。神様がしたんだ。これもどこまでそうです、ヨセフは。

汝らの金は我にとどけりと 遂に

人質になっているところの、

シメオンを彼等の所にたずさえいだせり 24 **かくて其人この人々をヨセフの家に導き水をあたえてその足を濯(あら)わしめ又その驢馬に飼草(かいば)をあたう**

まぁ非常によくもてなしてくれたわけです。

26 **茲にヨセフ家にかえりしかば彼等その手の礼物を家にもちきたりてヨセフの許にいたり地に伏してこれを拝す** 27 **ヨセフかれらの安否をとうていう 汝等の父汝らが初(さき)にかたりしその老人は恙(つつが)なきや尚いきながらえおるや**

お元気ですか、お変りないですかと。お父さんのヤコブのことを一生懸命聞いているわけだ。

28 **彼等こたえてわれらの父汝の僕は**

おもしろい言い方をしているね、

恙なくしてなお生ながらえおるといい 身をかがめ礼をなす 29 **ヨセフ目をあげてその母（ラケル）の子なる己の弟ベニヤミン（自分の血のつながっている実弟）を見ていいけるは 是は汝らが初(さき)に我にかたりし汝らの若き兄弟なるや 又いう わが子よ**

「わが子よ」というのは子供という意味でなく、親しみ呼びかけた。

願わくは神汝をめぐみたまわんことをと

祝福を祈ったわけです、ベニヤミンのために。

30ヨセフその弟のために心焚くるがごとくなりしかば急ぎてその泣くべきところを尋ね室にいりて其処に泣けり

さすがに弟を見たのでたまらなくなってしまった。何十年ぶりに弟を見たものだからね。

31而して面をあらいて出で自から抑えて食をそなえよという　32すなわちヨセフはヨセフ彼等は彼等

イスラエル人と同席するわけにいかないんです。

陪食する　エジプト人はエジプト人と別々に之を供う　是はエジプト人ヘブル人と共に食することをえざるによる　其事エジプト人の穢わしとするところなればなり

そういう律法になっている。エジプトの方でも穢わしいと思う。どっちもそう思っているのだから。

33かくて彼等ヨセフの前に坐るに長子をばその長たるにしたがいて坐らせ若き者をばその幼少にしたがいてすわらせければその人々駭きあえりルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルンの順に坐らせたわけだよな。どうしてこんなに順序がわかるかと。

34ヨセフ己のまえより皿を彼等に供う　ベニヤミンの皿は他の人のよりも五倍おおかりき　かれら飲みてヨセフとともに楽しめり

大饗宴をやってしまった。

●ユダ捨身の約束

44章に入ります。

1茲にヨセフその家宰に命じていう　この人々の嚢にその負うるほど糧食を充たせ

いっぱい入れてやれと。

各人の金をその嚢の口に置れ　2またわが杯すなわち銀の杯を彼の少き者の嚢の口に置れてその穀物の金子とともにあらしめよと

至れり尽くせりのおみやげをつくってしまった。

かれら城邑をいでてなお程とほからぬにヨセフ家宰にいいけるは　起てかの人々の後を追いおいつきし時之にいうべし　汝らなんぞ悪をもて善にむくゆるや

そう言えというんです。

5 **其はわが主がもちいて飲み又用いて常に卜う者にあらずや　汝らかくなすは**
悪しと

自分の杯をベニヤミンの袋の中に入れておいて、そしてもしその杯があったら、そいつはおれのところから盗んだやつだからと言って、そいつはこっちへ捕えると。なぜそんな悪いことをするかと。一つの策略だね。それでみんな袋の口を開いたところが、「いや自分はそんなことをした覚えがない」というわけでね。ところが杯はベニヤミンの袋の中にあったと、こういうわけです。ベニヤミンだって何も覚えがあるわけではない。

16 **ユダいいけるは　我等主に何をいわんや何をのべんや如何にしてわれらの正**
直をあらわさんや　神僕等の罪を摘発したまえり　然ば我等およびこの杯の見あ
たりし者倶に主の奴隷となるべし

なんて言わされてしまった。

17 **ヨセフいいけるは　きわめて然せじ杯の手に見あたりし人はわが奴隷となる**
べし　汝等は安然に父にかえりのぼるべし

さぁ今度はそこでどういうことになったかというと、今度はユダという四番目、これは智いんだ。さすがにエッサイ、ダビデ、ソロモンの祖先だけあって。

18 **時にユダかれに近よりていいけるは　わが主よ請う僕をして主の耳に一言い**
うをえせしめよ

一言いわせてくださいと。「大変ですよ、もしベニヤミンをあなたが取ってしまったら、私のお父さんは死んでしまいますよ」と。これを言うわけです。これは「是非連れて帰れ」というのに、とんでもないことになった、そんなことをしたら。

22 **われら主にいえり童子父を離るをえず若父をはなるるならば父死すべしと**

ベニヤミンがもし帰ってこなかったらお父さんは死んでしまいますよ。これ今度はヨセフにとっては痛いんだ。このことを言われてしまった。計画がそこのところだけ間違えた。

23 **汝また僕等にいいたまわく　汝らの季の弟汝等とともに下るにあらざれば汝**
等ふたたびわが面を見るべからずと

ヨセフも今度は参ってしまったわけだ。云々と書いてありまして、

29 **なんじら是をも**

「是をも」というのはベニヤミン。

我側より取りゆかんに若災害是の身におよぶあらば遂にわが白髪をして悲し
みて墓にくだらしむるにいたらんと

父ヤコブがそう言ったからだめですよと。

30 **抑　父の生命と童子の生命とは相結びてあれば我なんじの僕わが父に帰り**
いたらん時に童子もしわれらと共に在ずば如何ぞや

どうしてくれますか、どうにもならんじゃないですかと責め寄ったわけだよね。

31 **父童子の在ざるを見ば死ぬるにいたらん 然れば僕等なんじの僕われらの父**
の白髪をして悲しみて墓にくだらしむるなり 32 僕わが父に童子の事を保いて
我もし是を汝につれかえらずば永久に罪を父に負わんといえり

そう約束して来たんですと。だからどうぞ、私をどうにでもしてくださいと。こういうわけです。ユダがそう言った。

33 **されば請う僕をして童子にかわりおりて主の奴隷とならしめ童子をしてそ**
の兄弟とともに帰りのぼらしめたまえ 34 我いかでか童子を伴わずして父の許
に上りゆくべけん 恐くは災害の父におよぶを見ん

即ち、ベニヤミンは帰してやってくれ、私ユダは残ります。そしてあなたの奴隷になりますよと。四番目の兄さんのユダはやっぱり偉いよ。それだけ捨身でもってお父さんと約束してきたんだから。なかなか日本の武士道精神に似たところがある。

●遣わしたるは神なり

そこで45章、今日の最後の章のところにくるわけです。

1 **茲にヨセフその側にたてる人々のまえに自ら禁ぶあたわざるに至りけれ**
ば

どうにもならん、これだけのことにおしつまってきたらね。ヨセフもたまらない。

人皆われを離れていでよと

兄弟と私だけにしてくれと、他の人は座をはずしてくれと、

呼ばわれり 是をもてヨセフが己を兄弟にあかしたる時

「私はヨセフだよ」ということを言った時に、

一人も之とともにたつものなかりき

もうそこにじっとしていられない。

2 **ヨセフ声をあげて泣けり**

本当は私はあなた方の一番末っ子なんだと。

エジプト人これを聞きパロの家またこれを聞く

非常に簡単な表現ですけれども、文章としてはうまいですね。深刻なことはむしろ簡単な表現の方が強いんです。

3 **ヨセフすなわちその兄弟にいいけるは 我はヨセフなり わが父はなお生なが**
らえおるやと 兄弟等その前に愕き懼れて之にこたうるをえざりき

その通り、言葉が出ない。「あなたがヨセフか、夢にも思っていなかった」と。正に文字通り、夢にもみていなかった。

4 **ヨセフ兄弟にいいけるは 請う我にちかよれと かれらすなわち近よりければ**
言う 我はなんじらの弟ヨセフなんじらがエジプトにうりたる者なり 5 されど

汝等我をここに売りしをもて憂うるなかれ 身を恨むるなかれ 神生命をすくわしめんとて我を汝等の前につかわしたまえるなり

神様がそうしたんだ。神様があなた方の饑饉の時にあなた方を救うように私を先ずエジプトに遣わしたんだと。

6この二年のあいだ饑饉国の中にありしが尚五年の間耕すことも穫ることもなかるべし 7神汝等の後を地につたえんため又大なる救をもて汝らの生命を救わんために我を汝等の前に遣したまえり 8然ば我を此につかわしたる者は汝等にはあらず 神なり

この言葉が一番力強い言葉です、今日読んだところで。

「汝等にはあらず 神なり」

と。キリストは十字架にかかった時に、

「お前たちがかけたのではない。私は自分でかかるんだ。私は自分で捨てるんだ」

と。キリストも人の悪をみんな負いながら、

「神様の業である」

と言った。どのような人生の事柄においても、最後のところは

「神なり」

という言葉です。この「神なり」という、一切の事態の一番根底の答えは、「神なり」という答えです。

まぁ人間は相対的判断をたくさんやる。そして、どっちが善いの悪いの、なんのかんのと。けれども、その次元にいるうちは本当の世界に入れない。もう一つ絶対次元の世界は「神なり」というその答えです。神である。そして私たちにとっては、

「キリストなり」

キリスト一切というところに来ますと、相手を本当に担い上げるところの本当の平安がくる。ヨセフがそうでしょうが、彼は本当の平安と本当の担いが一つになっている。

●真理はドラマティック

この創世記の、兄弟とヨセフの劇的な事態、ここに福音がある。だから、

「福音はドラマだ」

と私は言っている。組織神学ではありませんよ。偉大な文学がなぜ素晴らしいかというと、真理はドラマティックなものだから表現できないんです。本当の真理の世界は頭でわかって整うような、そんなものは本ものではない。

「ここに遣わしたる者は汝等にあらず、神様が遣わした」

と。お前たちが私を憎んで売ったりしたけれども、その奥はみんな神の業なんだ。何も心配いらんと、本当の救いが来るためだ。そしてお金は一つもいらんと、みんな返してしま

った。そういう創世記45章の8節の、

8 然ば我を此（ここ）につかわしたる者は汝等にはあらず 神なり

というのは非常に重い言葉です。

神われをもてパロの父となし その全家の主となし エジプト全国の宰（つかさ）となし たまえり

みんなこれも神の業である。パロがやったのではない。神様が全部やった。一番深い意味で神の「摂理」「フォァゼーウング」（Vorsehung）が成っているんです。だから、神の歴史なんです、本当に。イスラエルの歴史は、イスラエルの惨憺たる人間の側にもかかわらず、神の救いの歴史である。これがなかなかわからない。みんな人間は相対的判断でなんだかんだとやっているから。

そして、ヨセフは家族たちをエジプトに呼ぶようなことがその後に書いてある。

14 而してヨセフその弟ベニヤミンの頸（くび）を抱（かか）えて哭（な）くにベニヤミンもヨセフの頸をかかえて哭く 15 ヨセフ亦その諸の兄弟に接吻し之をいだきて哭く 是のち兄弟等ヨセフと言（ものい）う

非常に感激的なシーンです。後は読んでおいてください。とにかく45章までやったことにしておきますから。

まぁドラマティックな事実を皆さんとただずっと辿って読んで、それでいいんです、今日は。その事実がよくわかっていないと、

「遣わしたるは神なり」

という、重い一言の内容が出てこないわけですから。

「遣わしたるは神なり」というのは、その背景にこれだけのドラマがあった。全部神様がもう一つ奥でもってちゃんと見ておられた。だから、ルベンが「殺してはいかん」と言ってみたり、そういうようなところはみんな神の働きがかかっているわけです。使命がある限り、神様の生ける真理が伝えられんがための使命がある限り、どのような現実をも突破していく。パウロがそうでした。とにかく、

「神なり」

「キリストなり」

という、この魂のどん底にこれが坐っていなかったらダメですよ。お終い。